

1 単元名 有漢荘交流会をしよう

2 目標

有漢荘の高齢者との交流活動を通して、高齢者への尊敬や感謝の気持ちをもつことができる。  
 有漢荘の見学をしたり介護士さんの意見や話を聞いたり疑似高齢者体験したりすること等を通して、高齢者の立場や思いを知り、自分たちにはできることは何かを話し合い、高齢者に喜んでもらえるような交流計画を考えることができる。  
 交流計画のための見学や準備のための話し合い、交流体験後の新聞作り等を通して、自分なりに体験の成果とこれからの課題を自覚できる。  
 施設の人の仕事や高齢者の生活の様子にふれ、介護や支援を受けながら健康で安全な生活を送っていることを知る。

3 単元の構想図

総合的な学習の時間(25) 子どもの学びの姿(評価)	児童の意識の流れ	教科・領域等の学習
<p><b>自分たちにもできることを考えよう(2)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に役立つことを話し合う。</li> <li>・ボランティアの方と花壇の手入れをする。</li> <li>・他にも何かできることはないか話し合う。</li> </ul> <p>ボランティアグループの方との交流を通して、社会に貢献したい気持ちになり、自分にできることを考えることができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道を通る人のために花壇をきれいにしているんだな。</li> <li>・ボランティアの方のお手伝いをしたいな。</li> <li>・やってみよう。</li> <li>・喜んでもらえて良かった。</li> <li>・他にも何かできるかな。</li> <li>・ボランティアグループのYさんが有漢荘へ花を持っていくといいと話してくれたな。</li> <li>・有漢荘のお年寄りにお花を持って行ってあげよう。喜んでもらえるような交流もしたいな。</li> <li>・お年寄りに喜んでもらえる交流会にしよう。</li> </ul>	<p>&lt;社会&gt;                      (校区探検をしよう)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土居地区の花壇を整備するボランティアグループと出会う。無償で社会に奉仕する地域の人の願いを知る。(1)</li> </ul>
<p><b>お年よりに喜ばれる有漢荘交流会をしよう</b></p>		
<p><b>有漢荘についてもっと知って交流会へ行こう(17)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有漢荘について知っていることとそうでないことを明らかにし、質問したいことをまとめ、見学に行く。(3)</li> </ul> <p>分からないことをはっきりさせ、質問したいことを意欲的に考えることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再度花の水やりにいき、施設のことだけでなく、高齢者の様子を深く知る。見学したことをまとめる。そのなかで有漢荘の高</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会に行くには有漢荘のことを知らなくては。</li> <li>・見学に行きたいな。</li> <li>・有漢荘ってどんな建物かな。</li> <li>・施設の人はどんなお世話をするのかな。</li> <li>・どんなお年寄りがいるかな。</li> <li>・プランターの花を喜んでくれるかな。</li> <li>・車いすに乗っているな。</li> <li>・トイレの鏡が斜めだな。</li> <li>・お風呂の器具がすごいな。</li> <li>・見学で施設のことは分かったけど、お年寄りのことはあまり分からなかったな。</li> <li>・もう一度お年寄りの様子を知りたいな。水やりも行きたいな。</li> <li>・手が不自由なんだ。ご飯を食べさせてもらっている。</li> <li>・耳が聞こえにくいようだな。</li> </ul>	<p>&lt;国語&gt;                      (新聞記者になろう)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見学や取材の準備をする。(2)</li> </ul> <p>&lt;課外&gt;                      (プランターの準備をしよう) (0.5)</p>

高齢者の立場に立つにはどうしたらよいか考える。(3)

話し合いやグループ活動に積極的に参加することができたか。

- ・ワークショップ「80才の自分に会おう」で、疑似高齢者体験をする。(3)

\* 耳と目が不自由な体験

\* 手が不自由な体験

\* 有漢荘で車椅子体験

疑似高齢者体験を行うことで、高齢者の身体的不自由さを実感し、高齢者と接する際に配慮することを考えることができたか。

- ・見学やワークショップを生かして交流会の詳しい計画案を立てる。(1.5)

- ・グループごとに計画案の発表をし、友達同士意見交換し合った。介護士さんからアドバイスをもらい計画案の見直しをする。(1.5) <本時>

高齢者の立場を自分なりに考えアドバイスしあうことができたか。そして、アドバイスを生かし計画書を見直すことができたか。

- ・交流会の準備をする。(4)

- ・リハーサルをする。(1)

友達と協力して、計画書にそって準備ができたか。

- ・交流会をしよう(4)

高齢者と進んでかかわろうとしたか。具体的には、高齢者の気持ちを確認して聞き返したり、高齢者の気持ちを想像したりしながらかかわることができたか。

車椅子だから足が悪いのかな。

・実際に車椅子に乗って見たら分かるかな。

・耳をふさいでみたらいいかな。

・耳が聞こえにくいな。大きな声で話さなきゃ。

・相手が分かったかどうか確認しなきゃ。

・手が固定されると食べにくいな。手伝ってあげる方がいいのかな。

・楽しそう。

・字が読みにくい。

・話せないって苦しいね。でも、心が通じ合うと嬉しいね。

・思ったよりできるよ。

・お年寄りにまた会いに行けるよ。

・車椅子に乗るとこんなふうに見えるんだ。

・何かをするときは、座った高さを考えていこう。

・おしゃべりタイムや肩もみをしたいな。

・昔の遊びをしたいな。みせたいな。

・交流会の計画を発表しよう。

・中学生のお兄さんやお姉さんに教えてもらった和太鼓がしたいな。

・耳が聞こえにくかったから大きな声でおしゃべりしないとね。

・自分たちが楽しむのではなくて、お年寄りが本当に喜んでくれることって何だろう。

・Aさんの意見は理由がはっきりしているな。お年寄りに優しいそうだからいいな。

・その活動はお年寄りには難しいかな。

・介護士さんに教えてもらいたいな。

・もっといい計画にしよう。

・ここをかえていこう。

・準備は大変だけど楽しみだな。

・介護士さんがアドバイスしてくれたからばっちりだ。

・いよいよ明日。緊張するけれどがんばろう。

・緊張するけど喜んでもらいたいな。

・喜んでもらえているかな。

・優しい人ばかりだ。

・少し寂しいのかもしれない。

・でも、自分で何とかしようとかんばっている人もいる。

・お世話をする人は、お年寄りの立場になってお世話している。

<道徳>

(泣いたあかおに)(1)

2-(2)思いやり・親切

<学活>

(構成的グループエンカウンター「無言しりとりをしよう」「無言イメージ図をかこう」)

・黙っていても、伝えたい気持ちがあれば気持ちが通い合うことを体験する。

<道徳>

(マザー=テレサ)(1)

2-(2)思いやり・親切

<課外>

(交流会の準備をしよう)

(2~3)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞にまとめる。(2)</li> </ul> <p>表現の方法を工夫して、自分の思いを新聞にすることができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・また、来たいな。</li> <li>・来たことをこんなに喜んでもらえた。嬉しいな。</li> <li>・楽しかったことを新聞にしたいな。</li> <li>・私達の活動をたくさんの人に知ってもらいたいな。</li> </ul>	<p>&lt;国語と課外&gt; (新聞記者になろう) ・活動のまとめとして新聞を作る。(4~8)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返ろう(1)</li> <li>・自己評価し学んだことを作文に書くことでふりかえる。(1)</li> </ul> <p>成長した自分に気付き、次の活動の意欲をもつことができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前の私と比べるとお年寄りのことがよく分かったし好きになった。</li> <li>・お年寄りはとても優しくかった。</li> <li>・お年寄りに喜ばれて自信がもてた。</li> </ul>	

#### 4 指導上の立場

##### 題材について

急速な高齢化が進んでいる。多年にわたり社会の発展に貢献してきた高齢者が、尊厳を保持しつつ、充実した人生を送ることができるよう、安心・安全な生活を保障されるべきだが、虐待等の深刻な課題も少なくない。超高齢化社会を展望しつつ、高齢者が地域との人間的なつながりの中で、周囲から敬愛され快適に生活できる地域社会にしていかなければならない。

そのためには、小学校段階では、身近な高齢者とのかかわりを大切にしたい。交流を通して高齢者を理解することは大切なことであり、社会の一員としても必要なことである。

学区には、特別養護老人ホーム「有漢荘」があり、昨年度から3・4年生が交流するようになった。昨年の交流では、児童が、自分たちの考えた出し物で交流を深めた。人間関係を築く能力やコミュニケーションの技能、他の人の立場に立って考える豊かな想像力を培うことができる交流であることから本年度も取り組むことにした。本年度は、高齢者理解をさらに深め、おもいやりや尊敬の気持ちを持って、高齢者に寄り添った交流活動を展開していきたい。

そのために、花のプランターをプレゼントしたり見学や取材を繰り返ししたりする交流前の活動を充実させたい。何度も有漢荘の高齢者と会って、相手を知り、かかわることが理解を深めることになると考えるからだ。

また、交流前に疑似高齢者体験のワークショップをすることも、高齢者の理解に効果的だと考える。その中で、自己満足ではない、高齢者の立場に立った交流会の計画を立てることができると思う。

本単元では、交流を通して、語るができなくても、その高齢者から感じることでできるやさしさや温かさを実感することになるだろう。また、自分が高齢者に喜ばれることで、喜びを与えられた喜びを感じ、自分自身の良さを発見したり、自分に自信をもつことができたりするであろう。このような活動を通して、「相手の立場に立ってかかわっていく中で相手を理解し、自分も理解でき、その時、心と心が通い合う」という気持ちが高まっていくと考えた。

本単元は、社会科「校区探検をしよう」に関連し、高齢者で地域のボランティアグループと交流を深めたことをきっかけに活動を展開していくので、人権感覚をより高めていくことができると考えた。ここで高めた人権感覚を、2学期の単元「障害を知ろう」で生かすことができ、さらには高学年での福祉の学習内容にも発展させることができると考えられる。

##### 児童の実態について

本学級の児童は、男子8名、女子6名計14名である。そして、総合的な学習の時間は、特別支援学級から1名男子が交流学級で共に学習する。交流に関しては、4年生は昨年経験しており、意欲的である。穏やかに高齢者に接することができ、また、高齢者から感謝されたことで自分への自信を高めている。有漢荘交流経験のない3年生は、高齢者とどう接して良いかわからず戸惑う児童も多いだろう。しかし、ほとんどの児童が祖父母と同居をしており、高齢者は身近な存在でもある。高齢者とのコミュニケーションの技能や相手の立場を想像する力の素地はあると考える。

友達とのかかわりでは、まだまだ自分の思いを通してしまうことが多く、相手の気持ちを想像して人とのかかわることができにくいこともある。しかし、帰りの会等では、学年の枠を越え友達の良さを発表することができ、相手を思いやる内容が多い。相手の立場に立ち、気持ちを想像し実践することをねらった有漢荘交流を通して学んだことを児童の日常生活にも生かすことで、思いやりの気持ちを深めていけると考える。また、意図的にグループ活動を多く取り入れている。友達同士意見を言い合ったり時にはけんかをしたりする中で、少人数だけに、自分の思いを表現する機会が増え、自他の良さを発見しやすいので仲間づくりに有効な学習形態であるからだ。しかし、気の合う友達でないと学習意欲が低下したり集中力が続かなかったりする児童も数名いる。

### 本時の指導について

児童は前時まで、よりよい計画を立てるための見学や取材を行っている。また、高齢者の疑似体験のワークショップでは、今後の計画を見直す上で大切な気付きがあると考え、そして、それをもとに計画書を作る。作った全計画書は印刷し、課外で検討させ、自分の考えを発表しやすくしておきたい。

本時では、交流内容別に計画書の発表をし、友達同士意見交換をしたり有漢荘の介護士さんをゲストティーチャーに招き適切なアドバイスをしていただくことで交流会の計画がよりよいものになっていくと考える。意見交換の中で、友達の考えの良さに気付いたり自分の計画に自信がもてたりできると考える。また、交流への意欲も高めることができると考える。また、介護士さんから介護士を職業にして続けられているのは、やりがいがあること、そのやりがいは、社会的に弱い立場にある高齢者を自立支援できるといったことを話していただける。介護士の方の思いや願いを知ることは、すばらしい勤労観にふれることにもなり、人権感覚を高めることになるのではないかと考えた。

### 研究主題とのかかわり

地域の人と繰り返し交流したり、ワークショップ等を効果的に設定したりすることで、研究主題に迫りたい。このような場を設定し支援していくことで、主に二つの力を児童に育てていくことが可能だと考える。一つ目は、児童が他者の立場に立ち、他者の思いを想像する力を育てることができる。二つ目は、協力して学習するプロセスを通して、友達とのコミュニケーション能力を育てることができる。具体的には、体の不自由な高齢者の立場を考えたり、家族と離れて暮らしている思いを共感的に受け止めたりするために、事前の見学や花の世話、そして、疑似高齢者体験のワークショップを行う。

有漢荘へプレゼントした花の世話という必要感から何度も有漢荘へいく。その活動を通して、高齢者とふれあうこともでき、相手を深く知ることができるだろう。また、どのように接したらよいかということも直接交流することで実践できるようになっていこう。車いす体験では、実際に施設内で体験でき、高齢者との好ましいコミュニケーションをとることに役立つであろう。

有漢荘の見学や訪問時、本時では、有漢荘の介護士さんのアドバイスを適宜受けることができる。同じ介護士さんに毎回かかわっていただくことで、介護士さん自身の高齢者への思いや接し方にもふれることができ、高齢者へのかかわり方のすばらしいモデルを身近に知ることができると考える。

話し合い活動や振り返り活動では、友達との意見交換の時間を大切に。友達の気持ちを考えながら、自分の意見も積極的に言えたり理由付けて話せたりすることで、コミュニケーションの能力を高めることができると考える。他教科・領域等でも日常的に支援していく。

コミュニケーションの技能を身に付けるために、事前に話したりふれあったりする練習をしたり、計画案をもとに交流会の準備をしたりする。技能を身に付けるだけでなく、自信をもって交流会へ臨め、交流会を成功させることで、自己肯定感や自尊感情を高めることができると考える。

5 本時案

ねらい	グループごとに計画書を発表し、意見交換や介護士さんのアドバイスから計画書を見直すことができる。	
学習活動	主な発問と予想される児童の反応	教師の支援
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>有漢荘のお年寄りがみんなを待っている！ ？（おや？）と！（そうだ！）を発表して、グレートな交流計画にしよう！</p> </div> <p>2 交流計画案を発表し、意見交換をする。</p> <p>3 交流計画を見直す。</p> <p>4 見直したところを発表する。</p> <p>5 本時を振り返る。</p>	<p>今日のめあてを読みましょう。</p> <p>計画書を作るときに気を付けたことを確認しましょう。</p> <p>交流計画書を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれグループごとに発表する。</li> </ul> <p>？と！を発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすなので、ゲームといっても簡単なゲームがいいな。</li> <li>・プレゼントは、使うものがいいかな。飾るものもいいかな。</li> <li>・もっとお年寄りのことを考えないといけない。</li> <li>・ここは分からないから、ゲストティーチャーに聞きたいです。 有漢荘見学や疑似高齢者体験を生かした交流計画かどうかで話し合うことができたか。</li> </ul> <p>今までの発表を聞いて、自分たちが考えた交流計画を見直そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この計画は、ちょっと無理があるかな。</li> <li>・ここはこのように変えたらいいんじゃないかな。</li> </ul> <p>見直したところを発表しよう。</p> <p>お年寄りのことを考えて、よりよい交流計画を考えようと意見交換できたか。</p> <p>よりよい交流会にするために感じたことや考えたことをワークシートにまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の話聞いていて、こんなことをしてみたいな。</li> <li>・お年寄りたちをもっと喜ばせてあげたいな。</li> </ul> <p>介護士さんの仕事のことや願いについてお話を聞きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大変な仕事だけどやりがいがあるんだな。</li> <li>・がんばってるんだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学や疑似高齢者体験から交流をするときの話し合った留意点を掲示物から想起させる。</li> <li>・積極的にアドバイスをしたり理由をつけたアドバイスや建設的なアドバイスをしたりしている児童を称揚する。</li> <li>・互いにアドバイスし合うことがよい交流会になることを伝えたい。</li> <li>・ゲストティーチャーの介護士さんから随時アドバイスをいただく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数の担当グループで見直すことで意見を言う場を設定し、児童の願いが反映されるようにする。</li> <li>・ゲストティーチャーの介護士さんにもアドバイスをしながら机間指導をお願いする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見直した根拠をはっきりさせる。</li> <li>・本時のがんばりを認め合い、次時への意欲付けをしたい。</li> <li>・今日のまとめと介護士の仕事とやりがいについて語っていただく。</li> </ul>

## 6 研究協議

- ・教材として有漢荘交流へこだわりをもって単元構成した。なぜなら、児童は交流前は、高齢者に喜んでおもうという思いで行くが、交流後には、高齢者から感謝され喜んでいただけたことが「自分への自信」になり自尊感情を高めることになり、高齢者へ感謝できるからだ。そして、また有漢荘交流をしたいと感じ、次への意欲につながるからだ。この単元を通して相手を思いやることの大切さを実感し、普段の生活の中で友達へも思いやりを持って接することができるとういことが、その手立てをどうすべきかと考えている。
- ・振り返る時間の設定と振り返る視点が3点、はっきりしていたのでよかった。
- ・計画書の段階で意見交換をするか交流会前に意見交換会をするか迷うところだが、本時でよかった。
- ・GTの話もよく、授業の終末がよかった。
- ・3, 4年生の発達段階から振り返りや見直しをしなくてもよいと思ったが、してよかったのではないか。児童の思いが深まったようだ。すべきことも明確になった。また、他のグループの考えもよく分かり全体にまとまりが出る。
- ・難しい課題であったが、児童の反応がよかった。
- ・H児が、高齢者の立場をよく考えた発言をしていた。
- ・ するのが楽しい、 するのが当然だというような思いが出ていた。また、プランの練り合いをしているとき、友達の意見を大切にしたり互いに尊重したりしていたので、雰囲気よかった。

## 7 成果と課題

### 成果

#### \* 繰り返ししかかわることの良さ

- ・何度も繰り返ししかかわることができ、有漢荘へ的高齢者の方と交流したいという気持ちが高まった。児童から自発的に「もう一回有漢荘へ行きたい。」「見学に行って話がしたい。」という発言があった。有漢荘の同じ介護士さんに単元を通して何度も相談することができ、繰り返し介護士さんにかかわることで、高齢者理解を深め、交流会の計画書作りでも介護士さんの意見を参考に計画書を作ることができた。また、交流会後には「2学期か3学期にも交流会をしたい。」という感想が多くあった。そして、自分たちができることがもっとないだろうか話し合い、空き缶を集め車椅子を贈る計画を立てた。3学期に車椅子を贈ることができた。児童の達成感は大きかった。よって、繰り返し同じ方へかかわることで相手への理解が深まり、実践的な行動にまでつながった。

#### \* 地域素材の良さ

- ・有漢荘の介護士さんがGTとして来てくださったのも地域の良さである。高齢者の多い有漢で福祉について学ぶことは、地域の実態にあっている。家族に高齢者がいる児童は、「うちのばあちゃんも足が悪いから気をつけよう。」「耳が聞こえにくいから、ゆっくり大きな声でしゃべろう。」と話していた。

#### \* 直接体験

- ・交流会での交流は、事前のシミュレーションや疑似高齢者体験では得られない達成感や自尊感情を高めることになった。交流後の振り返りで、「涙を流してお年寄りの皆さんが喜んでくれた。」「ぼくの話喜んで聞いてくれた。」「折り紙を喜んでくれた。」等、高齢者が喜んでくださったことに満足することができた。

#### \* ワークショップ

- ・「お年寄りのことをもっと分かりたい。」「どうしたらできるのだろう。」と話し合い、高齢者疑似体験をすることになった。目の見えにくさや耳の聞こえにくさ、手足の動かしにくさを体験することで、「耳が聞こえにくいって大変だなあ。」「ゆっくりでないと動くのが怖いなあ。」という感想があった。相手の立場を想像するためにも疑似体験は有効であった。

#### \* PDCA サイクル

- ・単元構想を立てるときに、PDCA サイクルを意識して作成した。一単位時間の流れも単元全体の流れもこのサイクルを応用した。児童の意識にそって学習を進めやすかった。計画を立て実際にした後で振り返ることは、次の計画を立てる話し合いのときに役立ち、よりよい話し合いにつながった。交流会の計画を実際に全体の前で発表した後、アドバイスをもらったが、当初の計画案よりよいものが仕上がった。

### 課題

#### \* 時間設定

- ・課外での時間を多くとることになった。交流会を成功させようとするほど、よいものをしたいという願いが高まり、放課後や休み時間を使うことが多く、児童の負担になった面もある。効率的にすすめるために、高齢者疑似体験は、関係機関と連携し、GTを招けばよかった。また、施設へ何度も行くことで、時間を超過してしまった。

#### \* 道徳の時間

- ・道徳で扱う価値を「2-(2)思いやり」にしたが、もっと効果的な内容項目があったのではないかと思う。もう少し吟味しておけばよかった。例えば、高齢者を扱う内容のものを入れておけばよかった。